

# 弟子道：新約聖書に基づくイエスに従う

## 導入

新約聖書は、イエス・キリストに従う者の核心的なアイデンティティとして弟子であることを強調しています。この研究は、聖書に基づき、弟子となることへの聖書的な召命、その代償、目的、そして課題を探究します。「弟子」（ギリシャ語：mathētēs、学ぶ者または従う者を意味する）という言葉は、新約聖書に 250 回以上登場し、「クリスチャン」という言葉の 3 回（使徒 11:26、使徒 26:28、ペテロ第一 4:16）をはるかに上回っています。この研究は、イエスの弟子であることの意味を明確にし、忠実であり続けることの課題に取り組みます。

## 1. 聖書における弟子のアイデンティティ

- 「クリスチャン」対「弟子」（使徒行伝 11:19-26）：
  - 「クリスチャン」という言葉は、アンティオキアでイエスの弟子たちを指す言葉として初めて使われたが、おそらく部外者によって使われたのだろう（使徒行伝 11:26）。新約聖書にはわずか 3 回しか登場しないことから、初期の信者たちの主要な自己認識ではなかったことがわかる。
  - 対照的に、「弟子」という言葉は 250 回以上使用されており（例：マタイによる福音書 10 章 1 節、使徒言行録 6 章 1 節、7 節）、イエスの教えと模範に従う学習者を強調している。
  - イエスはご自身の生涯と命令を通して弟子としてのあり方を定義し、弟子たちに完全に服従するよう呼びかけました（ヨハネ 8:31-32）。

## 2. 弟子となる目的

- イエスに従うよう呼びかける（マルコによる福音書 1:14-18）：

- イエスは弟子たちに「わたしに従いなさい」「人の漁師になりなさい」（マルコ 1:17）と呼びかけ、宣教活動を開始した。この呼びかけは、弟子たちが以前の生活（例えば、網漁や舟漁）を捨てて、イエスの使命を追求するという、即座の服従を意味していた。
- 弟子となる目的は、イエスが模範を示されたように、福音を分かち合い、他の人々をキリストへと導くことである（ルカ 19:10）。
- 大宣教命令（マタイによる福音書 28:18-20）：
  - イエスの最後の命令は、すべての弟子たちに「あらゆる国の人々を弟子とし」、彼らに洗礼を授け、イエスの命令に従うように教えることだった。
  - 弟子育成は連鎖反応です。弟子が弟子を作り、その弟子がさらに弟子を作り、教会が形成されます（使徒行伝 2:42-47）。
  - イエスは、この使命に従う者たちと共にいると約束している（マタイによる福音書 28 章 20 節）。

### 3. 弟子としての性格

- 愛は弟子の証である（ヨハネによる福音書 13 章 34-35 節）：
  - イエスは弟子たちに、自分が彼らを愛するように互いに愛し合うように命じ、それによって彼らのアイデンティティを世に示した。
  - この愛は犠牲的で実践的であり、キリストの模範を反映している（第一ヨハネ 3:16-18）。
- 相互の励ましと責任：
  - 弟子たちは、罪の欺きを防ぐために、日々互いに励まし合う（ヘブライ人への手紙 3 章 12-14 節）。
  - 彼らは互いの罪を告白し、互いのために祈ります（ヤコブ 5:16）。
  - 彼らは知恵をもって互いに教え合い、戒め合う（コロサイ 3:16）。
  - 彼らは必要を満たすために物的資源を共有する（使徒行伝 2:44-45、第一ヨハネ 3:17-18）。

## 4. 弟子となる代償

- 個人の選択と犠牲（ルカ 9:23-26、ヨハネ 12:24-26）
  - 弟子となるには、自己を否定し、日々自分の十字架を背負い、イエスに従うことが必要である（ルカによる福音書 9 章 23 節）。
  - これは、イエスが「わたしの願いではなく、あなたの御心が行われますように」（ルカ 22:42）と祈ったように、個人的な欲望よりも神の御心に従うことを意味します。
  - イエスはこの犠牲を麦の粒のたとえで説明しています。「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままです。しかし、死ねば、多くの実を結びます」（ヨハネ 12:24）。真の弟子は、霊的な実を結び、神の国を広げるために、自己に「死ぬ」こと、つまり世俗的な執着を手放すことが必要なのです。
  - この世の命を愛する者はそれを失い、この世の命を憎む者（現世の命よりも永遠の命を重んじる者）はそれを永遠の命のために保つてであろう（ヨハネ 12:25）。イエスに仕える者はイエスに従わなければならない、父はそのようなしもべたちを尊ぶであろう（ヨハネ 12:26）。
  - イエスを選ぶということは、世俗的な利益や家族の絆よりもイエスを優先することを意味するかもしれない（ルカ 14:26-27、マタイ 10:37）。
  - イエスは、自分と自分の言葉を恥じることは、自分から拒絶されることにつながると警告している（ルカ 9:26）。
- 代償を計算する（ルカによる福音書 14:28-33）：
  - 弟子たちはイエスに従うことの代償をよく考え、最後まで耐え忍ぶことを確実にしなければならない（ルカ 14:28-30）。
  - 真の弟子は、神から与えられた賜物（例えば、時間や資源）を所有するのではなく、管理人として捉え、すべてを神に委ねます（ルカ 14:33、ローマ 12:1-2 では、信者は自分の体を神に喜ばれる聖なる生きた供え物として捧げるよう勧められています）。
  - 例えば、教会の働きに貢献すること（コリント人への手紙第一 16:2）や、もてなしの心を示すこと（ローマ人への手紙 12:13、ヘブライ人への手紙 13:2）などが挙げられる。
- 試練における忍耐（ヤコブ 1:2-4、ヘブライ 12:7-11）：

- 神は試練を用いて信仰を試練し、成熟させ、忍耐と聖さを生み出す（ヤコブ 1:12、ヘブライ 12:10）。
- キリストのために苦しむことは、弟子たちをキリストの苦しみと一致させる（ペテロ第一 4:12-16、フィリピ 3:10-11、パウロはキリストを知り、復活を得るためにキリストの苦しみにあずかりたいと願っている）が、個人的な罪のために苦しむことは称賛に値しない（ペテロ第一 4:15）。

## 5. 忠実な弟子たちへの保証

- 神の恵みと約束（テトス 2:11-14、ペテロ第二 1:3-11）
  - 神の恵みは、弟子たちに不敬虔な行いを拒絶し、正しく生きるように教える（テトス 2:12）。
  - 信仰、徳、愛において成長することによって、弟子たちは自分たちの召命と選びを確証し、墮落しないことを確実にする（ペテロ第二 1:10-11）。
  - 祈りと従順を通してキリストにとどまることは、私たちの内にキリストが宿ることを確かなものにします（ヨハネ 15:4-5、ガラテヤ 2:20、パウロは「私はキリストと共に十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」と宣言しています）。
- 落とし穴を避ける：
  - 敬虔であるという評判だけでは不十分である。神は人の心を知っておられる（黙示録 3:1-3）。
  - 人間の伝統は神の戒めにとって代わってはならない（マルコ 7:6-8）。
  - 弟子たちは偽善を避けるために、自分たちの生活と教えを注意深く見守らなければならない（テモテへの手紙第一 4:16）。

## 6. 伝道における言い訳と恐怖の克服

- 聖書に見られる恐怖を克服する例：

- モーセ（出エジプト記 3:10-12、4:10-14）：モーセは力不足や恐れを感じていたが、神は彼に力を与え、ご自身の臨在を約束された。
  - ギデオン（士師記 6:11-16）：ギデオンの恐れと無力感は、「わたしはあなたと共にいる」という神の約束によって克服された。
  - エレミヤ（エレミヤ書 1 章 4-8 節）：神はエレミヤの若さを言い訳として退け、恐れるなと命じた。
  - イザヤ（イザヤ書 6 章 1-8 節）：神の赦しを経験した後、イザヤは自ら進んで神の使命に志願した。
  - ペテロ（ルカによる福音書 5:4-11）：ペテロは自分の罪深さを自覚したことで、イエスの「人を捕らえよ」という呼びかけを信じ、恐怖を克服した。
- 応用：
    - 神は、恐れや自分の至らなさを感じながらも、弟子たちに福音を伝えるよう召命している（コリント第二 5:17-20）。
    - イエスの「恐れるな」という命令は、弟子たちが福音を伝える力を与える（ルカによる福音書 5 章 10 節）。

## 7. イエスに目を向け続ける

- レースにおける忍耐（ヘブライ人への手紙 12:1-3）：
  - 弟子たちは、信仰の先駆者であり完成者であるイエスを仰ぎ見ながら、忍耐強く信仰のレースを走り続ける。
  - 神と共に永遠の命を得るという希望は、忍耐する原動力となる（ヘブライ人への手紙 12 章 2 節）。
- 福音の緊急性（コリントの信徒への手紙二 6:1-2）：
  - 福音は、イエスが私たちのために罪となられたのは、私たちが神の義となるためであると宣言しています（コリント第二 5:21）。
  - 今は「救いの日」であり、即座の対応が求められている（コリント第二 6:2）。

## 議論のための質問

- 神が弟子となるよう呼びかける中で、あなたにとって最も励みになる点は何ですか？
- 弟子として忠実に生きる上で、あなたにとって最大の課題は何だと予想しますか？
- イエスに従うという決意の表明として、洗礼を受けることを考えたことがありますか？(使徒行伝 2 章 38 節、ローマ人への手紙 6 章 3-4 節参照)

## 弟子となるための実践的なステップ

- 学習のタイミング：聖書の知識がある人には早めに、信仰を築く必要がある人には後から弟子訓練を始める（使徒 8:12）。新しい信者を圧倒したり、信仰に消極的な態度を容認したりしないように注意する。
- 伝道：弟子訓練の一環として、他の人々に福音を伝えましょう（マルコ 1:38、ルカ 19:10）。聖書研究に誘う人のリストを作成しましょう。
- 洗礼：洗礼は信仰に対する聖書的な応答であり、信者をキリストと結びつけるものであることを論じる（使徒行伝 2:38、ガラテヤ人への手紙 3:26-27）。
- 教会への参加：定期的な献金（コリント人への手紙第一 16:2）、もてなし（ペテロの手紙第一 4:9）、困っている人を助けること（ガラテヤ人への手紙 6:10）を通して、教会の使命に関わりましょう。
- 日々の自己否定：祈りや奉仕の時間を個人的な快適さよりも優先するなど、意図的に自己を委ねる行為を実践し、「麦の粒」の原則（ヨハネ 12:24-26）を体現しましょう。

## 結論

弟子となることは、イエスに従うという生涯にわたる決意であり、従順、犠牲、そして愛によって特徴づけられます。ヨハネによる福音書 12 章 24-26 節でイエスが教えているように、自己を捨てることによって、弟子たちは多くの実を結び、伝道と忠実な生活を通して神の国を広げていきます。新約聖書の教会は、弟子たちが大宣教命令に従ったことによって爆発的に成長しました（使徒言行録 2 章 47 節、6 章 7 節、16 章 5 節）。イエスに目を向け、神の約束に頼ることによって、私たちは困難を克服し、福音を分かち合い、最後まで忠実であり続けることができます。